

# 私、およそ 120 歳です。 ～これからも毎日生徒たちを見守ります！～

『[信州大学歴史探訪マップ](#)』に掲載している、信州大学教育学部附属長野中学校北門の門柱は、令和2年4月、正門後方に移築されました（写真1）。

この門柱は、現在の教育学部の地（長野市西長野）にあった長野県庁（明治7年建築）の2代目正門として明治30年代に建てられました\*。明治41年、県庁が火災により現在地（長野市南長野）に新築移転した後は、跡地に移転してきた附属小学校の正門、戦後には附属中学校の正門として残されます。さらに門柱は、昭和56年、附属長野中学校とともに現在地（長野市南堀）に移転し、文化遺産として今もなお大切に保存されています。

## ★ 新たに設置された場所



正門（構内敷地の西側）の後方に建てられました。

地震による倒壊を防ぐため、中に鉄心を入れ補強し、コンクリートで土台とつなぎ合わせています。

<写真1>

## ● 以前まであった場所



構内北口通用門として使われていました。

※「旧県庁の建物の移り変わり」と附属長野中学校に受け継がれた門柱もあわせてご覧ください。